

## 支援学校の〈トライやる〉に付添い

◆9/28～10/2、青陽須磨支援学校中等部2年生の〈トライやるウィーク〉に当区会から21人が参加、付添いボランティアとして延べ40日活動しました。

【ぎゅらりーわ72号 p7に関連記事】

◆〈トライやるウィーク〉は県下の中学校が2年生を対象におこなっている1週間の職場体験。支援学校の場合はとりわけ学校・受入れ事業所および家庭さらにボランティアの連携が大切になります。

◆5年前〈わ〉は初めてこの行事に参加しました。その翌年から須磨区会はこの活動を全面的に引き受け、以来実績を重ねて本校のご信頼を得てきました。

◆今年はこれまでで最多の10人×5日＝延べ50人・日の参加を求められ、改めて本校のご期待の大きさを実感しました。

◆参加メンバーは2か月先行して決めていましたが、実施当日までに体調不良などによる取止めがあって、上記のとおり40人・日の参加にとどまりました。とはいえ実績としては過去最多です。

◆参加メンバーは次のとおりです。

西尾孟三(生7・友が丘)、菅田忠志(生11・友が丘)  
内藤宣子(福13・若木町)、柳川瀬淳一(国13・横尾)  
青木千恵子(国14・菅の台)、国里吉秀(生15・神の谷)  
廣澤陽子(生15・菅の台)、井上千加子(園15・東白川台)  
水野光明(福16・東白川台)、吉本清二(福16・道正台)  
青山泰子(音16・高倉台)、高津尚之(福17・菅の台)  
中屋好生(福17・神の谷)、田路義弘(生17・高倉台)  
中西次郎(美17・神の谷)、水上桂子(音17・多井畑)  
広瀬範義(福18・竜が台)、永野知己(生18・若草町)  
入本瀧子(音19・潮見台町)、齊藤幸久(園119・白川台)  
細野恵久(福3・白川台) 以上21人

◆今年の〈トライやる〉受入れ先は13の事業所。生徒27人がそれぞれの能力・個性に応じて振り分けられました。区会メンバーが付添った事業所は主に神出自然教育園で、このほかにもピータンハウス(陶芸作品)、ホーリーツリー西部(音楽療法)、地下鉄名谷基地、および北須磨文化センターへ付添いました。

◆職場で与えられるしごとは簡単でも、障害のある生徒にとっては決して容易ではなく、手を貸すことも度々です。意欲を失いがちになる生徒に、焦らず、おだやかにと自身に言い聞かせながら接するのは、加齢とともにせっかちになりかかっている自分を見直す機会でもあります。

◆〈トライやる〉では撮影は許されません。しかし写真の有無は活動記録としての価値を左右します。学校では私どもの事情を理解され、差支えない範囲で写真を提供して下さることになりました。その中の1枚の水上桂子さんに初めて参加した感想を聞きました。

## 部会活動のつながりを区会活動に

◆須磨区会225人の8割強が何らかの部会活動に参加しています。(注：本部役員と本部直轄の事業・プロジェクトは含みません)だれがどの部会でどんな活動をしているか、裏面の表にまとめてみました。

◆部会活動は何をするかから出発しており、シーズ先行型の活動と言えます。そのためにメンバーどうしのつながりも生まれやすいのです。ただ場合によっては「他のために」が希薄になるかもしれません。

◆一方、区会活動は地域のニーズに応じる形でおこなわれますが、参加メンバーが固定しにくく、せっかくのニーズに応じきれないことがあります。

◆メンバーのつながりを育て、深めることは区会の重要な課題です。もし部会活動でのつながりが区会の中で活かされればこれほど有難いことはありません。

◆例えば、区会行事のプログラムに部会が加わる、区会が施設や学校から得ている部会へのニーズを紹介し、協力して活動するなど。

◆部会活動と区会活動が、情報の交流と活動の協力を通じて有機的に結びつくようにしたいものです。その第一歩は〈わ〉の会員がお互いに「だれがどんな活動をしているか」に関心をもつことではないでしょうか。裏面の表がその手がかりになれば幸いです。

## 第3回 ウォークラリー大会 近づく 10月25日(日) 奥須磨公園で

9:30最初のチームがスタート。約3.5kmのコースを  
コマ図で探りながらチェックポイントを通過して戻るまで  
の正確さを競います。表彰後閉会解散12:30

生徒に付添っている  
水上桂子さん  
⇒



### トライやるウィークのボランティアに初参加

支援学校のトライやるウィークに付添いのボランティアを、という呼びかけに添えられたアピールに動かされて参加を決めました。それは、応募者はまだ11人で、1人を除けば昨年までの経験者ばかりであること、特別な経験は必要ないのでもっと多くの初参加者を望むこと、これまでの実績で得られた学校の信頼に添えて昨年以上の参加者を送りたいということなどでした。

実は、私自身には別の動機もありました。この9月に70歳の節目を迎える機会に何か記憶に残ることをしたいという気持ちがあったのです。

事前説明会では付き添う予定の生徒さんと対面することになっていましたが、その日はお休みだったため実現せず、本番当日には何か落ち着かない気分で行きました。

### 水上桂子(音17・多井畑)

行き先は神出自然教育園と聞いていて、この日の秋にしては強い日差しの下での作業がちょっと心配されました。しかし彼と挨拶を交し、移動のバスで車窓の田園風景を見ながら少しずつ会話するうちに気持ちがほぐれてきました。

体験したのは芝桜の苗をポットに植え替える作業でした。屋根で日陰になっていたのもホッとしました。周りが騒がしくしている中で黙々とピンセットで苗を抜き取り、ポットに土を入れ、その中心に丁寧に植え替えている彼の姿に感心しました。家でも庭木の水やりなどをしているようでした。将来、いいしごとが見つかりますようにと、つくづく思いました。

先生方は、生徒さんそれぞれの個性や能力に合わせて指導されており、その大変な心配りを間近に見て、有難く嬉しく感じながら帰宅しました。